

ら諸君に於ても問題の性質につき篤く考へられたいのであります序に
附言しておきますが諸君は會社に退職手當の制定を願つておいた處解
雇手當の發表を見たさういふ居る様でありますが會社は退職手當と解
雇手當と兩方を發表したのであつて何も不都合なところなく全く問題と
ならぬのであります

次に過日決行された解雇のことですが之は會社からも通知の通り會社
の營業が非常に不振に陥り前期の如きは遂に無配當に終りましたが會
社は出来るだけ失業者を出さぬ様苦心に苦心を重ねて無理な仕入仕事
などもやつて居つたのであります然し去月二十七日以來の怠業に出會
ひましては一層損失を多くするところになりましたので其儘事業を繼續す
べき見込も絶え已むを得ず事業を縮少することに決定されたのであり
ます即ち會社が失業者を出すまいと努めて居つた折角の苦心も空しく
水泡に歸しましたので最早整理を斷行するの已むを得ざる破目となり
遂に多數の解雇者を出すことになつたのは誠に遺憾に思ひます

諸君は今解雇された人達と一所に行動して居る様に思ひますが若し諸
君が其人達に同情の積りで一所になつて居るのでしたら之は非常な間
違つたことと思ひます過日解雇された人達は會社の事業縮少の爲めで
ありますから當人には誠にお氣の毒であります但し諸君から此人
達の復職などを願出た所で迎も出来る相談ではないのであります斯様
な現状にある會社に望をかけて永く固執して居る様なことでしたら之
は諸君の同情が却て其人達に仇となるばかりでなく諸君も迷惑を蒙り
結局共倒れとなると思ひますそれ故解雇された人達を救ひ自分達も立
つて行かうとするならば一刻も早く解雇された人には他に就職口を求
むる様勧告すると共に諸君は速に工場に歸り誠意を以て仕事することに
あります

私は會社の事情を十分承知して居り又諸君の爲めを思ふの餘り此通告
を發して諸君の反省を促がす次第であります

大正十二年七月十九日

株式會社新潟鐵工所 東京工場主任